

【機関報告】

リュブリャーナ大学文学部アジア・アフリカ研究学科日本研究講座

Japonologija, Oddelek za azijske in afriške študije, Filozofska fakulteta, Univerza v Ljubljani

住所 Aškerčeva 2, 1000 Ljubljana SLOVENIA
電話番号 +386 (0) 1 241 1446, +386 (0) 1 241 1308, +386 (0) 1 241 1450
ファクス +386 (0) 1 425 9337
ホームページ <http://www.uni-aas.si/>

リュブリャーナ大学文学部には、26の学科、3つの研究所、2つのセンターがあり、そのうちのアジア・アフリカ研究学科には、日本研究講座と中国研究講座がある。

アジア・アフリカ研究学科は、1995/96年度にリュブリャーナ大学文学部内に設立され、当初から日本研究と中国研究の2講座が存在する。中国研究、日本研究の両分野とも、当学科設立以前はスロヴェニア東方学会の枠内で活動があり、一般向け語学講座やシンポジウムなどを行っていたが、学科はそれらの活動を吸収、発展させている。昨年度はアフリカ学も方法論の一部として開講された。また、韓国学、インド学も将来当学科内に設立の計画があり、現在、韓国語やサンスクリット語が受講できる。

日本語学習者数 (2009/2010年度)

1年生: 39人 (シングルメジャー)、43人 (ダブルメジャー)
2年生: 23人 (ダブルメジャーのみ)
3年生: 11人 (ダブルメジャーのみ)
4年生: 18人 (ダブルメジャーのみ)
5年生以上: 24人 (ダブルメジャーのみ)
一般開講講座: 初級13人、初中級8人
東アジア文化専攻: 38人 (ダブルメジャーのみ)

シングルメジャー (単一専攻) の学生は、日本研究という一つの専攻だけを履修しており、週に26コマ受講する授業がすべて日本研究の授業 (選択科目も含む) となっている。ダブルメジャー (二重専攻) の学生は、日本研究専攻のほかにもう一つ、文学部で開講されている専攻 (例えば、社会学、歴史、地理、他の言語や文学など) を履修し、日本研究専攻の週14コマの授業の他に、もう一つの専攻でも同程度のコマ数の授業を受けている。

日本研究担当教員数: 8人 (日本人3名, 日本人以外5名)

カリキュラムと語学教育の内容

2009/2010年度の学事暦 (1年間に30週間授業がある)

冬学期	2009年10月1日－2010年1月15日
夏学期	2010年2月15日－2010年5月28日
冬休み	2010年1月18日－2010年2月12日

冬期末試験	2010年1月18日－2010年2月12日
夏休み	2010年7月5日－2010年8月20日
夏期学年末試験	2010年5月31日－2010年7月2日
秋期学年末試験	2010年8月23日－2010年9月17日

2009/2010年度は一年次にのみ新カリキュラム（ヨーロッパ高等教育改革の方針〔ボローニャ・プロセス〕に準拠）が導入された。2年次以上の授業は旧カリキュラムで行われており、一年ずつ新カリキュラムが導入されて行く予定である。

1年次（新カリキュラム）

日本語文法講義	2コマ／週	
日本語表記	2コマ／週	
日本語演習	6コマ／週（二重専攻）	及び 10コマ／週（単一専攻）
異文化研究方法論1	2コマ／週	
東アジア史1	2コマ／週	
選択科目	8～9コマ／週	（単一専攻の学生のみ）

2年次（旧カリキュラム）

日本語文法講義	2コマ／週
日本語演習	6コマ／週
日本語文法概論	2コマ／週
中国文学	2コマ／週
東アジア史2	2コマ／週
異文化研究方法論1	2コマ／週

3年次（旧カリキュラム）

日本語文法講義	2コマ／週
日本語演習	2コマ／週
翻訳1	2コマ／週
日本文学	2コマ／週
中国哲学	2コマ／週
古典入門	2コマ／週
選択科目1	2コマ／週

4年次（旧カリキュラム）

翻訳2・通訳	2コマ／週
東アジア宗教	2コマ／週
東アジア文化史	2コマ／週
中国哲学2	2コマ／週
日本語言語処理	2コマ／週
選択科目2	2コマ／週

選択科目3 2コマ/週

(選択科目：日本語言語学特講、古典文学、韓国語1、韓国語2、韓国語3、漢文、日本文化、論文技術、イスラム文化入門、日本伝統芸能入門、中国美術史、日本社会学入門、日本史特講)

1年生の授業は文法、語彙を重視したシラバスで、4技能のうち読解と会話に重点をおいている。また、語学と別に「表記」の授業がある。2年生からは談話、文体、文構造の説明・練習、日本人へのインタビュー活動、劇のシナリオ作成と発表演技も取り入れ、3年生の授業ではレポート、スピーチ、討論のような活動も行う。

当日本研究講座のプログラムの主な目的は、日本研究に必要な日本語理解力のある研究者を育てるとともに、スロヴェニアと日本との交流を支援できる専門家（翻訳、貿易、観光、報道、語学教師など）を育てることである。そのため、入学時に初級から日本語を習い始める学生を、3年間で一次的資料から日本文化を研究できるような実力を持つまでに育てる必要がある。つまり、書き言葉と話し言葉の両方に習熟し、専門家として活躍できるように必要な日本語4技能を身につけることを目指している。

入学当初は目的意識が不十分な学生が多いようだが、学年が上がるにつれて、とくに留学を経験する学生は、より明確な目的意識を持つようになり、将来の目標に向かって自立的に勉強・研究に取り組んでいる。

現在使用している教科書、教材

1年生

- ・ *Sodobni japonski jezik I* (現代日本語 I) フメリヤク寒川クリスティーナ、一宮由布子、井田尚美、守時なぎさ、柳ヒヨンスク、リュブリャーナ大学出版局 2008. (試用版使用中)
- ・ *Prvi koraki - Sodobna japonska slovnica za začetno stopnjo. I. del* (初級日本語文法 I) アンドレイ・ベケシュ、リュブリャーナ大学出版局 2000.
- ・ *Osnove - Sodobna japonska slovnica za začetno stopnjo. II. del* (初級日本語文法 II) アンドレイ・ベケシュ、リュブリャーナ大学出版局 2003.
- ・ *Uvod v japonsko pisavo : hiragana, katakana in prvih 854 pismenk* (日本語表記入門) フメリヤク寒川クリスティーナ、小林玲子、熊谷容子、重盛千香子、前野義明、宿里由起子、リュブリャーナ大学出版局 2003. (1年生は前半、2年生は後半を使用)
- ・ *Japonsko-slovenski in slovensko-japonski slovarček k učbeniku Sodobni japonski jezik I* (現代日本語 I-日本語スロヴェニア語・スロヴェニア語日本語語彙表) フメリヤク寒川クリスティーナ、リュブリャーナ大学文学部 2000.

2年生

- ・ 『文化中級日本語 I』文化外国語専門学校編 1994
- ・ *Intermediate Kanji Book vol. 1.* KANO Chieko, SHIMIZU Yuri, TAKENAKA Hiroko, ISHII Eriko, AKUTSU Satoru. Bonjinsha 1993.
- ・ 『初級から日本語スピーチ』凡人社

3年生

- ・『文化中級日本語Ⅱ』文化外国語専門学校編 1997

4年生

- ・ *Formal Expressions for Japanese Interaction – 待遇表現*. Inter-University Center for Japanese Language Studies. The Japan Times 1991 (通訳練習用)

1～4年生 生教材

<http://nl.ijs.si/jaslo> (日本語・スロヴェニア語ウェブ辞書+読解支援ツール、リーディングチュウ太のスロヴェニア語版)

試験 (学期末や学年末の試験) について

現代日本語1 (1年生) と現代日本語2 (2年生) では毎週、現代日本語3 (3年生) では3週間に1回、前回小テスト後に学習したところの小テストを行う。(1年生は月曜日に文法、火曜日に聴解、水曜日に表記、2・3年生は月曜日に文法+表記+聴解・短文書き取り。) このテストで50%以上の点数がとれた学生は年4回の学期中間・学期末試験(それぞれ出題範囲と内容が異なる)を受験する。この中間・期末試験の平均成績が10段階評価で8以上の学生は年末筆記試験が免除になる。

1・2・3年生の現代日本語の年末試験(学年進級条件となる)は筆記試験と口頭試験に分かれており、筆記に合格した学生のみが口頭試験も受けることができる。口頭試験の内容は次のとおり。

1年生：自己紹介、試験官が選んだ絵(文型練習用の絵カード)の説明。

2年生：学生が持参した写真(家族、好きな物、思い出の写真など)を説明し、試験官からの関連質問に答える。ロールプレイを行う。

3年生：1年間にあつかったさまざまな話題の中からくじをひき、2種類のテーマのうち好きな方を選んでそれについて話す。

聴解(リスニング)は、学年末試験には(口頭試験があるので)評価しないが、毎週の小テストと学期中間・学期末試験に評価している。作文(ライティング)は、1年生から3年生まで、中間・学期末試験および学年末試験ともに、作文の問題(試験全体の2割)がある。

学年末試験は、6月に2回、9月に2回、翌年2月に1回、合計年に5回、受験する機会がある。出題範囲が同じで試験問題が異なる試験を実施する。過去の問題は公開される。試験採点后、学生に試験問題を返却。希望者は過去の問題を閲覧、コピーできる。

試験問題は、それぞれの授業を受け持っている教師(2～3人)が分担して作成し、採点する。

卒業試験は、卒業論文提出、卒業論文内容の口頭発表(日本語)と、それに関する質疑応答(日本語とスロヴェニア語)、4年間履修した全ての科目を対象にした口頭試問の三部から成る。所要時間は通常約1時間。

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages ; ヨーロッパ言語共通参照枠組み) について

当大学文学部では CEFR 準拠の統一した語学力認定制度を導入する動きがある。また、ボローニヤ方針準拠の新しい日本研究専攻プログラムのカリキュラムでは、それぞれの科目において、達成度目標記述 (can-do statements) の形式が定められており、この形式にしたがってカリキュラムを作成したが、CEFR 6 段階 (A1~C2) へはまだ対応していない。

交流

学科設立以来、1997 年には筑波大学、1999 年には群馬大学、2006 年には東京工業大学、2008 年には東京外国語大学と交流協定を締結した。また、交流協定は締結していないが、1996 年から東北福祉大学との短期留学交流も行っている。

特に筑波大学との交換留学は学科設立以前から行われており、毎年 3 月と 7 月に筑波大学から日本語教育専攻の学生が約 8~10 人、リュブリャーナで 2 週間の教育実習を行っている。1998 年以降、リュブリャーナ大学日本研究専攻からは、毎年 3~7 人の学生が筑波へ 1 年間留学している。2000 年からは 3 月および 7 月の教育実習に日本女子大学からの学生も 1 年に一人参加、リュブリャーナからは、6~7 月に日本女子大の数週間の短期語学コースに一人または二人の学生が参加している。今年度は、東京外国語大学からも実習生が当学科を訪れ、実習も行った。

これらの大学とは、教員、研究者の交流も頻繁に行われている。来年度には、東京外国語大学や群馬大学から、当文学部へ 1 年間の予定で学部留学生在が訪れる予定である。